

乳幼児アトピー性皮膚炎の疫学(頻度と要因)

出典	皮膚の科学(1347-1813)3巻 Suppl. 4 Page1-4(2004. 12) (http://search.jamas.or.jp/link/ui/2005114463)
著者	柴田瑠美子
調査地域	北海道札幌市、岩手県盛岡市、千葉県、岐阜県、 大阪府、広島県、高知県、福岡県
調査時期	2002年
調査対象	4ヶ月、1歳6ヶ月、3歳
依頼数	4ヶ月：2711人、1歳6ヶ月：6424人、3歳：511人
回収率	100%
有効回答率	100%
診断方法	医師による診察
有症率	4ヶ月： 12.8% 1歳6ヶ月： 9.8% 3歳： 13.2%
調査概要	全国実態調査(H14年度)ではAD有症率がH4年の調査より1.6-1.8倍増加していた。乳幼児のADの要因として重症例での食物アレルギー関与、ダニなど多種アレルギー早期監査、秋冬の出生月があげられた。